

目次/テーマ展 新・収蔵資料展～平成25(2013)年度からの新コレクション～ 表紙/いわて文化ノート 東北からみた明治～150年という視点～p.2-3/展覧会案内 テーマ展 新・収蔵資料展～平成25(2013)年度からの新コレクション～p.4-5/活動レポート 生物学的劣化防止の取り組み 事業報告 トピック展「モシリユウとその仲間たち」 p.6 /活動レポート 第10回岩手県立博物館まつり 事業報告 植物園大規模剪定p.7/インフォメーションp.8

テーマ展

新・収蔵資料展 ～平成25(2013)年度からの新コレクション～

平成30年12月15日(土)～平成31年2月24日(日)



まる いしだたみもんすか つば
「丸に石壘門透し鐺 (大小)」(歴史)



かざりし おやまわきち
鏝師 小山和吉の金銀細工指輪 (民俗)

博物館の命である資料、その多くは寄贈していただいたものです。今回の展覧会では、この5年間に増えた県民の財産を厳選して紹介します。詳しくは本文を御覧ください。

■いわて文化ノート

東北からみた明治 ～150年という視点～

専門学芸員調査員 武田 麻紀子（歴史部門）

■150年という視点

今年、明治維新から150年にあたります。政府は、明治を日本の近代の始まりと位置づけ、その偉業を称えるべく関連する様々なイベントを推進しています。

京都伏見の御香宮神社にある佐藤栄作元首相（山口県出身）の直筆の案内板には、「維新の大業はこの一戦に決した。近代国家へ進むか進まぬか（中略）わが国至上、否、世界至上まことに重大な意義を持つ」とあります。この一戦とは、戊辰戦争の端緒となった鳥羽・伏見の戦いを指します。このとき、薩長軍は天皇の軍であることを示す「錦旗」を掲げました。それは、禁門の変で御所に発砲し朝敵となった長州藩が一転、朝廷軍となったことを意味しました。反対に、京都守護職として朝廷と幕府に忠義を尽くした会津藩が朝敵とされたのです。朝廷軍となった新政府は、奥羽諸藩に対し会津討伐命令を出しました。新政府軍の一方的で強硬な態度に奥羽諸藩は戸惑い、藩内で激論を交わしながら、奥羽が戦場とならない方策を模索します。その一つが奥羽・越後諸藩が団結し、会津への公正な審議を求めることでした。しかし、奥羽越諸藩の嘆願書は新政府に聞き入れられることはなく、望まない戦火に巻き込まれ、「朝敵」「賊藩」の烙印を押されることとなります。つまり、「維新の大業」とは、新政府側の認識です。

一方、「賊藩」とされた地域の見方はどうでしょうか。今年度、新潟県立歴史博物館、福島県立博物館、仙台市博物館の共同企画である「戊辰戦争150年」展が開催されました。この企画展名を見て、はっとしました。東北人にとっては、明治維新150年ではなく、戊辰戦争150年という視点なのだと思います。

他にも、二本松市歴史資料館の「二本

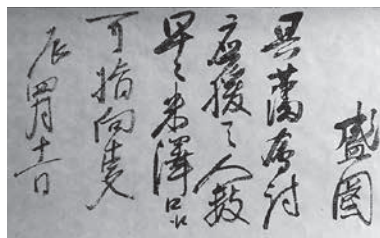
松藩と戊辰戦争」、米沢市上杉博物館の「戊辰戦争と米沢」などの特別展がありました。二本松藩では会津藩の白虎隊よりも年少の子どもで構成した二本松少年隊まで参加する総力戦が行なわれています。このように、戊辰戦争150年という視点を色濃く持っているのは、新政府軍に対し死力を尽した地域だといえます。



▲戊辰戦争時の一関藩士軍装/館蔵

■不戦中立という選択

慶応4年（1868）1月3日の鳥羽・伏見開戦後、すぐに新政府は「仙台藩が会津討伐を依頼したから許可する」との沙汰書を出し、続けて米沢藩・盛岡藩・秋田藩にも会津討伐の応援を命じました。仙台藩は覚えのない沙汰書の訂正を求めるとともに、情報収集と奥羽諸藩との連携を模索し始めます。



▲盛岡藩への会津藩追討沙汰書(複製)/館蔵

一方で、会津藩から朝廷への周旋を求められていた仙台藩主伊達慶邦は、新政府の決定に対して建言書を提出します。その内容は、鳥羽・伏見開戦のきっかけとなった発砲はどちらが先なのか、謹慎している徳川慶喜に本当に謀反の意志が

あるのか、戦いは若き明治天皇のお考えなのか、内戦をしている間に外国から干渉される危険はないのかなど、公議による公平公正な審議を求めるものでした。

新政府の矛盾をつく建言書の提出が失敗し、会津・庄内両藩への出兵を促すべく奥羽鎮撫総督府が派遣されると、仙台藩は手厚くもてなし、朝廷へ恭順の態度を示しながらも、戦いを回避すべく水面下で和平交渉の準備を進めます。

慶応4年（1868）、閏4月11日、白石で奥羽列藩会議を開き、翌日には仙台・米沢両藩主の嘆願書、列藩重臣の嘆願副申書、会津藩家老の謝罪嘆願書を鎮撫総督に提出しますが、5日後に却下され、さらに、下参謀世良修蔵（長州藩士）が暗殺されると戦いは決定的になります。

結果として軍事同盟に変化しましたが、この奥羽越列藩同盟は、石高や官位、殿席（江戸城における席次）など家格を超えた非戦中立のための平和組織として成立しました。また、その盟約書に公議や公平性が盛り込まれるなど、進歩的な内容でした。加盟したのは31藩、それに会津藩と庄内藩を入れると総石高260万石を超える勢力となり、薩長新政府に脅威を与えます。だからこそ、新政府は奥羽越列藩同盟の和平交渉を頑なに受け入れず、挑発的行動を繰り返し、武力征伐にこだわったと考えられます。



▲奥羽越列藩同盟旗(部分)/宮坂考古館蔵

■「公議（公論）」という思想

「公議（公論）」（以下、「公議」と表記）という考えは、黒船来航時に開国を巡る意見対立を収束させるため、幕府が有力

諸藩の意見を募り、外国に対抗する国策を打ち出そうとした公議政体論が始まりとされます。坂本亀馬の船中八策にも「万機宜シク公議ニ決スベキ事」の文言がみられます。薩摩藩も当初は大政奉還で幕府独裁体制を修正し、徳川家を含めた有力諸藩主による公議政体実現を目指しましたが、徳川慶喜が幕府復権の姿勢をみせると武力倒幕へと傾きました。

また、戊辰戦争時の仙台藩主の建言書、および奥羽越列藩同盟盟約書でも「公議」は強調されています。白石城には同盟の意思決定機関として「公議所」が設置されました。「公議」によって、公平で強固な同盟関係が形成でき、同盟外藩に対して奥羽越列藩同盟の正当性を証明できると考えていたと思われます。そして、それらの草案を作ったとされるのが仙台藩校養賢堂学頭の大槻磐溪です。蘭学者であった父玄沢の学者間ネットワークを引継ぎ、江戸で佐久間象山と関わるなど、世界情勢を熟知した開国論者でした。藩主伊達慶邦の頭脳ともいえる存在で、奥羽越列藩同盟結成に貢献しました。

磐溪が建言書や奥羽列藩同盟盟約書に「公議」を盛り込んだ背景には、慶応3年12月（1868年1月）に出された王政復古の大号令および翌年3月の五箇条の御誓文で「公議」を謳いながら、薩長の意向で新政府決定がなされていることへの強い抗議も含まれていたと推測します。

戊辰戦争に勝利した新政府も「公議」



▲大槻磐溪写真(複製)/一関市博物館蔵

実現の要請は無視できないものでした。五箇条の御誓文で「廣く會議ヲ興シ萬機公論ニ決スベシ」と公言していたこと、そして、中央集権体制が固まるまで諸藩の支持を維持する必要があったからです。

明治2年（1869）、立法院として「公議所」が置かれました。これは、各藩と諸学校から選出された公議人で構成され、後に明六社設立メンバーとなる森有礼が議長代行を務めています。穢多非人の廃止や廃刀など革新的な議案を提出しますが、1年数ヶ月で廃止されてしまいます。

明治政府による中央集権が進むにつれ、「公議」の考えは形骸化していき、政府を批判する言論を弾圧するようになっていきます。そのような藩閥政治を批判する勢力として興った自由民権運動が目指した憲法制定と民選議会開設は、新しい時代を目指すべき「公議」のあり方だったのです。

■「明治」という出発

戊辰戦争で賊藩とされた東北にとって、明治という時代は苦難からの出発でした。

盛岡藩をみってみると、新政府側に寝返った秋田藩征伐へと舵を切り、新政府軍と徹底抗戦したため、弱冠14歳で家督を継いだ藩主南部利恭は、20万石から13万石に減封のうえ、白石への転封を命じられました。盛岡藩家老榎山佐渡がなぜ秋田征伐を決定したかについては、明確な史料が見つかっていません。一説には京都で目にした薩摩藩士の横暴な態度に、薩長を中心とする新政府に不信を抱いたためとも言われます。たしかに、新政府軍の戦力を見誤り、藩を敗北に導いた責任があることは否めません。しかし、戊辰戦争後の薩長土肥出身者による藩閥政治への不満は、士族の反乱や一揆など国内の火種となってくすぶり続けます。榎山佐渡の予見は当たっていたのです。

奥羽諸藩への大幅な減封や遠地への転封はその後の地域発展の遅れの原因となります。また、戊辰戦争で賊藩とされた地域からの出世はかなりきびしいものでした。そのような環境下でも高い志を持つ若者たちは、大きく2つの潮流に別れていきます。賊藩の汚名を雪ぐべく、東北出身者でも比較的出世の余地があった軍人か外交官を目指す者、そして、薩長土肥による藩閥政治に徹底的に対峙すべく自由民権運動へ身を投じる者です。岩手において、前者の代表が原敬ならば、後者のパイオニアは鈴木舎定です。

今年、原敬が首相に就任して100年を迎えますが、藩閥政治であった明治・大正期に戊辰戦争の敗藩出身者が首相に上り詰め、憲政の常道である政党内閣制を実現することは至難の業でした。

また、自由民権運動においても、東北は長らく遅れていたと考えられてきましたが、当時の活動を追うと、東北で団結し、自由民権運動を牽引しようとしていたことが分かります。明治14年3月に舎定をはじめとする東北の自由民権結社の代表が集まり、東北七州自由党を結成しました。この動きは7ヶ月後に、全国規模の自由党成立につながるのです。

- | |
|--|
| <p>第1条 吾党八国家ニアリ自由ノ主義ヲ以テ相合ス（後略）。
 第2条 吾党八前条ノ主義ヲ以テ社会ノ改良ヲ図リ、（後略）。
 第3条 吾党八吾日本国民ノ当二同権ナルベキヲ信ズ。
 第4条 吾党八我日本ハ立憲政体ノ其宜シキヲ得ルモノナルヲ信ズ。</p> |
|--|

▲東北七州自由党盟約（明治14年3月）

明治から150年。戊辰戦争後、「白河以北一山百文」と揶揄され、中央から遅れた地域として見なされた東北において、日本のあるべき姿を必死で追い求めた人々の姿に思いを馳せます。

■展覧会案内

テーマ展 新・収蔵資料展～平成25(2013)年度からの新コレクション～

会期 12月15日(土)～平成31(2019)年2月24日(日) 会場：特別展示室

各分野の見どころを紹介します。

■地質

珍しいものとして元鉱山技師山岸定次郎氏(故人)が生前収集した100枚を越える地図や図面類があります。この中には氏が関わった県内のいくつかの鉱山の鉱区や坑道を記したものや、当時の役所に提出した書類が含まれています。県内の鉱山の記録はほとんど失われてしまっていますが、今回ご遺族から当館に寄贈された図面や書類の多くは定次郎氏が直接作成したと考えられることから、当時の鉱山の様子を知るとも貴重な一次資料といえます。

岩石標本では1950年代に当時地理調査所(現在の国土地理院)に所属していた吉田新生氏(故人)が、第3次南極地域観測隊として南極を訪れた際に、昭和基地付近で採集した片麻岩類を展示します。この岩石は少なくとも6億年以上前(先カンブリア時代)のものと考えられ、南極の大地の歴史を考える上でとても貴重な標本です。

また化石標本としては、一般の方からご寄贈をいただいた中生代白亜紀の海の地層(種市層)から産出した動物化石を展示する予定です。陸上で恐竜が生きていた時代には、海の中にもさまざまな動物が生きていました。今回の展示では、海生は虫類のクビナガリュウの肋骨の一部やモササウルス類の歯などを中心に、多数の動物の化石をお見せします。



種市層のクビナガリュウ肋骨化石

■考古

◆切断蓋付土器

製作時に壺の途中を切断してから焼いて、蓋のように使えるようにしたのですが、この資料は蓋の部分が見つかっていません。両端に紐を通す孔があり、お骨を納めるのに使ったという説があります。縄文時代後期前葉(約3800年前)に作られ、この時期の北海道南部～東北地方北部は、ストーンサークルに代表される、葬祭儀礼が非常に発達しました。



切断蓋付土器 九戸村南田出土

◆平瓦

古代城柵「胆沢城」から出土した平瓦で、真ん中付近で破片2点が接合した資料です。外側の面には縄目の模様が、内側にはガーゼのような布の跡が残ります。この他に、古代の瓦には丸瓦・軒平瓦・軒丸瓦・鬼瓦などの種類がありますが、当館が所蔵する「小田島禄郎コレクション」の中にも、いくつか瓦がありましたので、今回はそのうちの4点を特別に展示します。



平瓦 胆沢城出土

■歴史

◆丸に石畳紋透し罽(大小)(表紙)

岩手県指定文化財であるこの罽には、「盛岡住 源孝家」という銘が刻まれています。橋(源)孝家は盛岡藩お抱えの罽師として、この作品をはじめとして多くの作品を残しました。緻密な鍛錬による鉄地に家紋の「丸に石畳紋」が「透かし」の技法によって表現されており、作者の技術の高さがうかがわれます。

◆伝高野長英筆「旁訳洋文解」草稿

高野長英(1804-1850)は、水沢出身の蘭学者・医者です。長崎の鳴滝塾でシーボルトに学んだ後、江戸で町医を開業しました。蛮社の獄(1839)で捕らえられ、投獄されましたが、脱獄し、宇和島藩に保護されながら翻訳書を手がけるなど潜伏しながら活動を続けました。脱獄から6年後にその生涯を閉じました。

フランス語で記述された医学書を筆写し、さらに一語ずつ日本語の朱書きを書き添えたものです。この資料がいつ作成されたかは不明です。しかし、この資料は、高野長英が蘭学者・医者として西洋医学の知識を日本に伝えるため尽力したことを示す貴重なものと言えます。



伝高野長英筆「旁訳洋文解」草稿

◆電子計算機CS-10A

早川電気工業(現在のシャープ)が1964年7月に発売した世界初のトランジスタ電子計算機です。当時主流のゲルマニウム素子を演算回路に用いたもので、

トランジスタ530本、ダイオード2300本を使用していました。重量は25kgあり、価格は約53万円で、乗用車と同様に大変高級な機器でした。

■民俗

◆かざりし おやまわきち 銚師小山和吉の金銀細工指輪（表紙）

小山和吉は、明治39（1906）年に秋田県花輪町（現鹿角市）で生まれ、後に盛岡市紺屋町で工房を開きました。彼の仕事ぶりは、『いわての手仕事』にも紹介され、今回寄贈された資料4点のうち2点は同誌に掲載されています。展示資料はいずれも大変精緻な作りとなっていて、80歳を過ぎてから作られたものとは到底思えない作品です。4点とも台座の内側には小山和吉の手によるものという証の刻印を見ることができます。

◆鈴江家淡路人形

昭和62（1987）年、盛岡市の鈴江家で淡路人形と関連文書が発見されました。淡路人形じょうろりは、現在重要無形民俗文化財に指定されている長い歴史を持つ人形芝居です。江戸時代、淡路国（現兵庫県）より盛岡にやってきたあやつりし操師鈴江四郎兵衛は、寛永18（1641）年南部藩主南部重直に上覧し、盛岡での居住や盛岡鎮守の祭礼及び領内での興行を許されたそうです。淡路人形が発見された鈴江家はその子孫にあたります。人形の製作年代は不明ですが、その形式から享保（1716年）以前まで遡る可能性があります。全国興行を行っていた淡路人形が、当時盛岡の地までやってきたことを示す大変貴重な資料です。

◆古関六平コレクション

こせきくへい古関六平（1918-2011）は、東北を代表する漆芸家で、浄法寺塗や増沢塗など岩手県内の漆産業の保護振興にも尽力しました。六平は秋田県木地山の伝統こけ

し作家小椋久太郎と義理の兄弟関係にあり、自宅には小椋家との交流を示す数多くのこけしや、漆絵『温花』、乾漆花器などの未完作品が残されていました。その中には六平の絵付によるだるま達磨こけしや、戦前に増沢塗の特産品であった帽子ぼうし掛けこけしも含まれています。



古関六平コレクション 木地山系こけし

■生物

生物部門では平成25年から29年までの5年間に46,985点の資料を新たに登録し、資料数は総計172,536点となりました。これは当館登録資料の約57%にあたります。

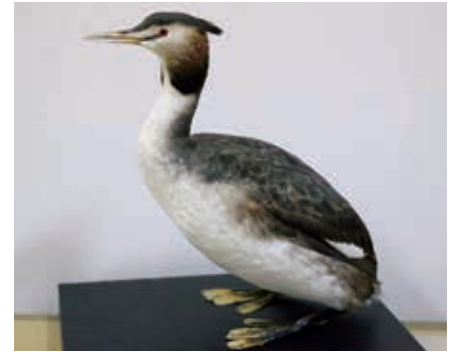
昆虫標本は、県内の昆虫収集家の方々から寄贈していただいた数万点に上る貴重なコレクションの中から厳選して展示します。中でも土井信夫氏が収集したガ類コレクションは『岩手県の大蛾類』（土井2005）の証拠となる重要なものです。



ウデグロカタオカハエトリ

当館の学芸員が採集した標本の中にも興味深いものがあります。ウデグロカタオカハエトリは、岩手県では46年ぶりに

記録されたハエトリグモの一種で、本州では他に群馬・長野県でのみ記録されている大変珍しいものです。



カンムリカイツブリ

当館には年間約30体の鳥獣の遺体が届けられます。これらは県内に生息している鳥獣の実態や変化を知るための重要な標本です。冷凍保存し、剥製を製作して資料化しています。

カンムリカイツブリは、頭部の飾り羽が印象的な大型の水鳥です。青森県と滋賀県の湖沼が繁殖地として知られていましたが、近年は岩手県の御所湖でも継続的に繁殖活動が確認されています。

《関連事業》

●県博日曜講座（講演会）

当日受付・聴講無料

1月13日（民俗・金銀細工）

1月27日（考古・切断蓋付土器の時代）

2月24日（考古・古代～中世の瓦）

*カッコ内は講演のテーマです。詳細は、裏表紙を御覧ください。

●展示解説会（特別展示室にて）

学芸員が見どころを御案内。

当日受付。入館料が必要です。

12月16日（日）

2月10日（日）

各回とも14：30～15：30

■活動レポート

生物学的劣化防除の取り組み

博物館職員は、収蔵された文化財を害するさまざまなものと日々戦っています。文化財に悪影響を与える要因には、温度・湿度、光（紫外線）、空気環境、生物（虫や菌）などがあります。どれもこれも、日常生活ではすぐそこにあるものばかりです。その中の、虫に注目してみましょう。

文化財を害する虫は「文化財害虫」と呼ばれます。どんな虫を想像されるでしょう？害虫の代表ともいえるゴキブリもその中に含まれますが、本当に怖いのは、なかなか目につかない大きさ数mm程度のとても小さい虫たちです。

シバンムシ、カツオブシムシ、シミ、チャタテムシなどがその代表です。あまり聞きなれないでしょうか？じつはどこ

の住宅にもいる、ありふれた虫です。これらは、大切な古文書や毛織物、動・植物標本などを食い荒らします。

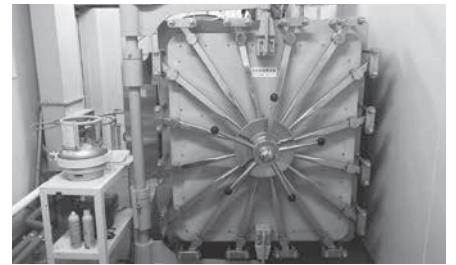
虫は注意すれば目視確認することができますが、菌はそうはいきません。見つけたときには広範囲に広がっている、そんな事態に陥ります。

これらが館内に入り込まないように日々注意を払っていますが、最も入り込みやすいタイミングが、外部から文化財が持ち込まれたときです。展示で借用した資料やご寄贈いただいた資料などは、展示ケースや収蔵庫に入ります。資料といっしょに文化財害虫やカビが入り込んでしまうと、一定の環境に保たれている展示ケースや収蔵庫は格好の繁殖場所になってしまうのです。

これを防ぐため、館内に持ち込まれた文化財は十分な目視確認を行い、必要に応じてくん（燻）蒸処理を施します。特殊な薬剤で殺虫・殺卵・殺菌するのです。もちろん、薬剤は文化財に影響が無いと確認されたものを使用しています。

文化財を永く後世に伝えるための取り組みも、博物館職員に課せられた重要な役割の一つです。

（学芸第二課 丸山 浩治）



資料のくん蒸を行う滅菌庫

■事業報告

トピック展「モシリユウとその仲間たち」

会期 平成30年7月24日（火）～8月26日（日） 会場：グランドホール

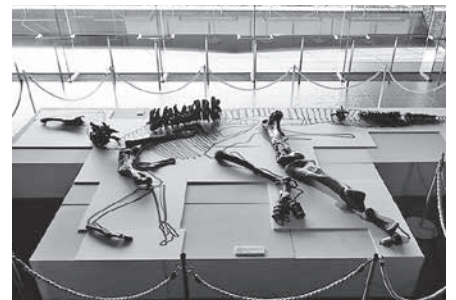
今から40年前、1978年の夏、岩手県岩泉町茂師で日本古生物学史上最も重要と言っても過言ではないある化石が見つかりました。それは、日本初となる恐竜「モシリユウ」の化石です。当館では発見40周年にちなみ、トピック展「モシリユウとその仲間たち」を開催しました。

モシリユウの発見には、二人の古生物学者が関わっています。ひとりとは東京大学大学院教授（当時）の花井哲郎氏、もうひとりとは国立科学博物館の연구원（現、同館名誉연구원）の加瀬友樹氏です。

二人は岩泉町茂師地域周辺に分布する白亜紀の海でできた地層（宮古層群田野畑層）の調査を行うために、この地を訪れました。ある日の朝、加瀬氏が民宿の向かいにある崖に目をやったところ、地

層中から大型の骨のような化石が覗いていることに気づきました。しかし、化石は非常にもろく、無理に掘り出そうとするとすぐに壊れてしまいそうでした。そこで、加瀬氏は町中の文房具店を周り、当時まだ珍しかった瞬間接着剤を買い占めて、慎重に骨を固めながら取り出して行きました。発掘された骨の化石は、その後横浜国立大学に持ち込まれ、専門家の鑑定によって大型の四足歩行恐竜の上腕骨の化石であると断定され、見つかった地名を取って「モシリユウ」と名づけられました。日本初の恐竜化石はこのようにして見つかったのです。

今回のトピック展では、このようなモシリユウが見つかった経緯を中心に、同じ地層から発掘された化石や、当館で所



恐竜エドモントサウルス実物化石

蔵している恐竜「エドモントサウルス」の実物化石や原始的な鳥類「始祖鳥」の複製標本等を展示しました。展示を見学された方の中には、日本で初めて恐竜の化石が見つかったのが岩手であることを知り、驚かされている様子が見受けられました。岩手県立博物館では、今後もこのような展示を行っていきたくて考えております。 （学芸員 望月貴史）

■活動レポート

第10回岩手県立博物館まつり

開催日 平成30年10月7日(日)

今年度で第10回を数える「岩手県立博物館まつり」が10月7日に開催されました。この事業は、小さいお子様や小学生を中心に博物館をより身近に感じてもらう、この日だけのさまざまな体験を通して博物館の魅力を多くの人に知ってもらうことを目的に開催しています。この日は、一年を通じて当館が最も賑わい、2000名を超す来場者の笑顔で溢れる日です。

さて、開門時間の9時になると、体験コーナー受付に整理券を求めて、多くの親子連れが列を作りました。整理券が必要なプログラムは「かせきのレプリカづくり」、「スライムどけいづくり」、そして今年の新プログラム「ねこえまづくり」の3つです。これら3つのプログラムは、午前・午後あわせて6回(一回あたり定員30名)実施されましたが、どの回も大盛況でした。特にねこえまづくりは女性に好評で、可愛らしいねこえまが出来上がるたびに歓声が上がっていました。また、開催中のテーマ展『祈りにみる動物

たち』では、陸前高田市猫淵神社所蔵の猫絵馬を展示しており、ネズミを退治するネコが養蚕の神として大切にされていた歴史を紹介しています。昨今の猫ブームもあり、博物館らしい切り口の展示と



ねこえまづくりにチャレンジ!

体験イベントのマッチングが好評でした。ほかにも館内では博物館まつり限定の「缶バッジづくり」や、戦国時代の甲冑や近代の夜会ドレスを身にまとうプログラムを楽しんでいただきました。

一方、屋外では子供はもちろん大人も楽しめるイベントが満載で、学芸員と一緒に岩石園・植物園を回る「たんけん!がんせきえん・しょくぶつえん」、重要文化財の曲屋(旧佐々木家住宅)でのわりばし鉄砲やイタドリ笛などで遊ぶ「たの

しい!!むかし遊び」など、例年にも増して好評でした。芝生広場で行われた民俗芸能公演「二子鬼剣舞」は圧巻で、ダイナミックな剣舞に拍手が鳴りやみませんでした。民謡公演では、山上衛さんによる南部牛追歌・チャグチャグ馬コが披露され、岩手県人の心の琴線に触れるその歌声に魅了されました。また、初開催の動物ふれあいコーナーも大人気でした。



大人気の動物ふれあいコーナー

台風の接近により開催が危ぶまれた今年の博物館まつりでしたが、最終的に2,000名を超す大勢の方々にお越しいただきました。博物館まつりの開催に際し、多くの方々にご協力、御指導いただきました。この場をお借りして心より感謝申し上げます。(専門学芸員 米田 寛)

■事業報告

植物園大規模剪定

平成30年2月

県立博物館は、岩手山がよく見えるように建設されたということをご存じでしたか? 駐車場からエントランスに続く階段、古民家に続く橋やグランドホールからの眺めなど、建築物の向きや角度は岩手山を強く意識して設計されています。ちなみに、館の外壁を覆っている瓦のようなタイルは岩手県の木である南部赤松を意識して特注されたものです。しかし竣工後約40年を経て、周囲の木々は成長し岩手山はかなり見づらくなってしまいました。なにより当館2階グランドホール

からは岩手山の山頂付近しか見えず、改善要望の声が多く寄せられていました。

実はそのような要望を受けて、来館者の少ない昨冬の間に植物園の大規模剪定が行われ、岩手山のグランドホールからの眺めが復活しました。突然眺めが変わったために、来館された方々から植物園が虫害か、病気かと心配されたりしま

したが、剪定によって樹木の先端部が切り詰められたからです。高く成長した木々の剪定作業は手間のかかるものでしたが、無事終えることができました。来館された際にはグランドホールからの岩手山の眺めをご堪能下さい。日差しの関係で、午前中早めの時間がお勧めです。

(学芸第一課 山岸千人)



グランドホールからの岩手山の眺め



岩手県立博物館

IWATE PREFECTURAL MUSEUM

インフォメーション〈平成30年12月1日～平成31年3月31日〉

お知らせ

●年末年始の休館について

年末年始は12月29日(土)～1月3日(木)まで休館します。

展覧会

◆テーマ展「新・収蔵資料展～平成25(2013)年度からの新コレクション～」

平成30年12月15日(土)～平成31年2月24日(日) 2階 特別展示室
平成25年度から平成29年度までの5年間に、新たに収蔵・登録した資料を中心に展示します。

■展示解説会 12月16日(日) 2月10日(日)
各回とも14:30～15:30 当館学芸員が見所を解説いたします。

■県博日曜講座 当日受付 聴講無料 各回13:30～15:00

1月13日 講師:木戸口俊子(当館学芸課長)
1月27日 講師:金子昭彦(当館学芸員)
2月24日 講師:鎌田勉氏(県教育委員会文化財課長)

*下記「県博日曜講座」の欄もご覧ください

◆テーマ展「岩手の往来～未来への道しるべ～」

平成31年3月16日(土)～5月6日(月・振)
奥州街道と宮古街道を中心に歴史を振り返り、未来に向けての展望にも触れていきます。

■展示解説会 各回 14:30～15:00 講師:当館学芸員
平成31年3月21日(木・祝) 4月6日(土) 4月20日(土) 5月4日(土)

■県博日曜講座 当日受付 聴講無料 各回 13:30～15:00

3月24日 講師:園田貴弘(当館学芸員)
4月28日 講師:西川幸一氏(新区界トンネル工事事務所長)
*下記「県博日曜講座」の欄もご覧ください

■県博日曜講座

第2・第4日曜日 13:30～15:00 当日受付 聴講無料

当館学芸員等が岩手の文化や歴史、自然について解説します。

*展覧会関連講座

12月9日「陸前高田市立博物館における被災文化財と再生の歩みー博物館復興を目指してー」
熊谷賢氏(陸前高田市博物館) 赤沼英男(当館学芸員)
12月23日「洪水について考える～水害・ダム・地層～」 山岸千人(当館学芸員)

*第4回北上川水源地域セミナーを兼ねます(終了15:30)

*1月13日「岩手の金工～新収蔵の金銀細工～」 木戸口俊子(当館学芸課長)

*1月27日「ストーンサークルと切断蓋付土器の時代ー3800年前の北日本の縄文文化ー」
金子昭彦(当館学芸員)
2月10日「中世の南部氏関連史跡をあぐる」 佐々木康裕(当館学芸員)

*2月24日「いわて・古代から中世の瓦のはなし(仮)」
鎌田勉氏(県教育委員会文化財課長)

3月10日「赤色顔料のはなしー土器・漆器の添付顔料を中心にー」
米田寛(当館学芸員)

*3月24日「岩手の往来と藤田武兵衛」 園田貴弘(当館学芸員)

*4月28日「岩手の道をつなぐ!宮古盛岡間最大の難所、区界峠の新しいトンネルと身近な土木」
西川幸一氏(宮古盛岡横断道路 新区界トンネル工事事務所長)

■日本再生医療学会市民講座

「再生医療を安全に届ける」

12月2日(日) 13:30～16:30 講堂 当日受付 聴講無料

講師 八代嘉美氏(神奈川県立保健福祉大学教授)ほか
再生医療の現在を専門家が解説します

■第4回北上川水源地域セミナー

12月23日(日) 13:30～15:30 講堂 当日受付 聴講無料

北上川やダム水源地域に関連するテーマを学ぶセミナーです
*県博日曜講座を兼ねます

■冬の写生会

写生会:12月15日(土)～1月14日(月・祝) 幼児～小学生対象

作品展示:1月19日(土)～2月11日(月・祝)

博物館からの景色や展示資料をお絵かきしましょう。(クレヨンや色鉛筆などはご持参下さい)

■週末の催し

◆ミュージアムシアター

毎月第1土曜日 13:30～15:00頃 講堂 当日受付 視聴無料

○12月1日 クリスマスアニメ特集「フランダースの犬」
(アニメ/103分/小学生～一般向け)
画家を夢見る少年ネロと愛犬パトラッシュにクリスマスの夜、奇跡が!

○1月5日 愛と勇気と冒険物語&児童劇の最高傑作
①「雪の女王」(アニメ/39分/小学生～一般向け)
多くの人々に助けられながら氷の城に向かう少女「グルダ」の愛と勇気の物語。

②「ゆかいなピエロとにげだした六匹の熊」
(実写/51分/小学生～一般向け)この映画は世界を明るくします!
ピエロとチンパンジーと六匹の芸をする熊たちが、ボールペンをなくした子どもたちと愉快なドタバタ騒ぎをくりひろげます。

○2月2日 平成の時代に入り30年～歴史を振り返る～
(実写ニュース映像/合計90分/一般向け)

①「県政ニュース S35・S36」 ②「さんりく路の皇太子ご夫妻～S45国体時来県～」 ③「昭和天皇の時代」

○3月2日 防災と名作アニメ(合計83分/小学生～一般向け)

①「ひなまつり」(アニメ/19分)
②「タイムスリップ1923 守のミラクル地震体験」(アニメ/15分)
③「稲村の火」(アニメ/21分)
④「金色の足あと」(アニメ/28分)

◆チャレンジ!はくぶつかん

毎月第2・第3土曜、日曜、祝日 小学生向け 随時受付

チャレンジ!マークをさがしてはくぶつかんをたんけん!

12月8日・9日・15日・16日 テーマ:新
1月12日・13日・14日・19日・20日 テーマ:干支
2月9日・10日・11日・16日・17日 テーマ:飛ぶ
3月9日・10日・16日・17日 テーマ:道

◆たいけん教室～みんなでためそう～(事前申込み)

毎週日曜日 13:00～14:30 3歳以上の幼児(保護者同伴)・小学生20名程度

さまざまな遊びやものづくり、実験を体験してみましょう。
*全プログラム有料(材料費代/プログラムごとに異なります)。

*要事前申込み。開催日の1週間前の日曜日から電話または博物館で開館時間(9:30～16:30、休館日を除く)に先着順に受け付けます。1度に3名まで予約可能です。予約状況・材料費代はホームページでご確認ください。

12月	2日 松ぼっくりのXmasツリー 9日 まゆで干支づくり(亥) 16日 松ぼっくりの正月かざり 23日 まゆで干支づくり(亥) 30日 (お休み)	2月	3日 スライムであそぼう 10日 オリジナル卵を作る 17日 おひなさまづくり 24日 おひなさまづくり
1月	6日 みずきだんご 13日 たこづくり 20日 木のこまの絵つけ 27日 こはくの玉づくり	3月	3日 お絵かきはんこ 10日 土偶づくり 17日 3Dメガネで万華鏡 24日 天然石のフォトフレーム 31日 化石のレプリカ

◆ミュージアムコンサートー親子で楽しめるクリスマスの音楽会

12月24日(月・振) 14:30～15:10 講堂 当日受付 鑑賞無料

出演団体:岩手県立盛岡第四高等学校音楽部
平成30年度全日本合唱コンクール金賞受賞の盛岡四高音楽部の素晴らしい歌声でクリスマスの日をお過ごし下さい。

■冬やすみワクワク!ワークショップ

1月12日(土) 対象:3歳以上の幼児(保護者同伴)～小学生 当日受付

受付時間 9:45～11:30 13:00～15:00 材料費各100円
「化石のレプリカづくり」または「おかしなせっけんづくり」にちようせん!!

■冬やすみスペシャル ワクワク!こどもツアー

12月22日(土)～1月20日(日) こども向け定時解説

日曜日:10:30～11:15 日曜日以外の開館日 13:30～14:15

ハンズオン資料を活用し、お子様向けの展示解説を行っています。
ワードパズルもやってみよう!!

*他の館内イベントとの兼ね合いでお休みする場合があります。

■定時解説

平日～土曜日 13:30～14:30/日曜日 10:30～11:30

解説員が常設展示室をご案内します。そのほかにも随時、解説員が皆様のご質問や解説のご希望におこたえしています。

*他の館内イベントとの兼ね合いでお休みする場合があります。

■平成30年度の利用案内

■開館時間 9:30～16:30(入館は16:00まで)

■休館日 月曜日(月曜が休日の場合は開館、翌平日休館)

年末年始(12月29日～1月3日)

■入館料 一般310(140)円・学生140(70)円・高校生以下無料

()内は20名以上の団体割引料金

*9月17日(月・敬老の日)は65歳以上の方無料

*11月3日(土・文化の日)は入館無料

*学校教育活動で入館する児童生徒の引率者は、申請により入館料免除となります。

*療育手帳、身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方、及びその付き添いの方は無料です。

岩手県立博物館だより 第159号 平成30年12月1日発行	編集 岩手県立博物館 〒020-0102 盛岡市上田字松屋敷34 Tel. (019)661-2831/Fax. (019)665-1214 発行 公益財団法人岩手県文化振興事業団 〒020-0023 盛岡市内丸13-1 Tel. (019)654-2235/Fax. (019)625-3595
-------------------------------------	---